

動植物公園の遊具乗り放題券

順調な収入確保

自然史博売店売り上げ増加

豊橋市議会一般質問

豊橋市議会は10日、3日目の一般質問を行い6氏が登壇した。市側は、豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）で本年度から導入した遊具の乗り放題券が安定的に推移している

と答え、順調な収入確保につながっていると示した。さらに約2倍の面積で拡張した自然史博物館内のミュージアムショップでは、現時点で前年同期に比べて8割上回る売り上げがあったと報告した。

中村竜彦議員（自民）の質問に対して、鈴木正視総合動植物公園部長が答弁した。遊具使用料に占める乗り放題券の購入割合は約5割で、その効果もあり遊具の稼働率は前年同期より8割程度増えているとした。

同公園が5月15日から運用を開始した駐車場料金については「入園者からも不満の声もほとんどなく比較的円滑にスタートが切れた」とし、入園者数にも影響がなかったことを示した。ミュージアムショップと、中央、東の各売店あわせた売り上げも4割程度上回っていると続けた。

レストランも地元食材を活用したメニューなどでサービス面の充実を図った結果、7月末までの売り上げは前年度を4割上回る結果になったと説明。

来園者100万人達成に向けた取り組みについては、プロモーション活動、魅力的なイベントの開催を挙げるとともに、各エリアで質的向上と新たな付加価値の形成を図るリニューアル事業を実施していく考えを示した。この日はほかに渡

辺則子（とよはし）市民会議）、古関充宏（豊流会）、田中敏一（自民）、伊藤篤哉（同）、星野隆輝（まちフォーラム）の各氏が登壇。

渡辺氏は、豊橋駅前で行われる市街地再開発事業の中枢となる「まちなか図書館」について質問。瀧川雅弘産業部長は、概略事業費の想定は行っているが、再開発事業が都市計画決定前の現時点では、事業進ちよくや地権者調整に影響が出る恐れがあるとし、「結果を公表できる段階ではない」とした。

そのうえで今後の事業の進ちよくにあわせ、支障のない範囲で順次公表したい考えも示した。

渡辺氏は図書館について話し合う「検討会議」の設置も求めたが、瀧川部長は「多くの意見を聞くことは重要。設置についても検討したい」と述べた。

星野氏は生活困窮者への支援について質問し、河合亮二福祉部長は、同市の生活保護受給世帯は1899世帯で、そのうち約半数の923世帯が高齢者世帯であると報告。

日雇いや非正規雇用などの不安定就労に長く従事した人たちが高齢化し、就労困難になっている事例も多く見られるとした。

ケースワーカーによる社会復帰支援や、就労可能な場合はシールバー人材センターへの登録なども行っているとした。

市はこの日、24議案を定例会に上程。そのうち11議案は各委員会に付託した。

（勝村誠之）